

春

になりました。♡皆様お元気ですか?年会費の季節です。新型コロナウイルスで世界がひとつになるなんて…。他のことで一つにしたいなあと思う今日この頃。動物病院にも多くの方が来院しますので少しでもお互いの感染リスクを抑える努力をしましょう。当院の新聞(ニュースレター)をおまけ?で入れますので、ご覧いただけると幸いです。今回のニュースレターでは、内科学アカデミーにおける当会での教育講演の報告と内容をお伝えします。(会員のアニマルライター:伊藤悦子さんです) SAMI 事務局



『私にとっての発明とは』

大阪府『岸上獣医科病院』岸上義弘

あくまで個人的な意見です。私にとっての発明とは、人類初のアイデアであり、地球上で誰も考え付かなかったことを自分が考え出したという、すばらしいことです。しかも世のため人のためにもなります。それは「コツ」さえつかめば、誰にでも生み出す可能性があります。今回はまず発明を生み出すための準備に取り掛かりましょう。

診療をやりやすくするための小さなアイデアから特許まで。いろんなアイデアを出していきましょう。大きなアイデアは、特許庁や弁理士が先願調査をしてくれますから、人類初かどうかとも判明します。ご自分の小さなアイデアがみんなを幸せにするという喜び、そしてご自分の出願したアイデアが特許になったときの喜びを、と一緒に味わいましょう。

発明を生み出すための

私なりの考え方

岸上義弘

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

1、不便を不便と感じる

- ・従来からある普通のこと
- ・日常、これが当たり前と思っていること
- ・これを「不便だ」と感じる 図々しさ
- ・苦勞したくないという ぜいたくさ
- ・本当に困っている人も居るだろう
- ・これらが必要

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

2、苦い経験

- ・不便だ
- ・無駄が多い
- ・うまく行かない
- ・苦勞する
- ・体力を使う
- ・失敗することが多い
- ・動物を助けられない

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

3、立ち止まる

- ・これは、本当にこれで良いのか?
- ・これが あるべき姿か?
- ・ふと、疑問を感じる。
- ・「え? 待って待って! これって変だ!」
- ・違和感に、一旦 立ち止まる。
- ・これが、発明の はじまり はじまり~。

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

4、「思い込み、偏見、決めつけ」

- ・いままでの常識を疑ってみる
- ・「これには、もうこの方法しかないはず。」と考えるのは早計。
- ・「これは、もう、こうに違いない。」というのは過去の常識。

「思い込み、偏見、決めつけ」を排除しましょう

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

9、発明は、偶然ではなく必然

- ・「偶然、発明できました」はウソ
- ・実は「偶然は、きつと必然」
- ・ゴルフのホールインワンみたいなの
- ・一見、奇跡に見える でも、
- ・ボールを打ったその方向、その距離、その角度、その回転 すべてそろっていたからこそ、ホールインワン
- ・偶然ではない
- ・パッと閃いた発明でも、決して奇跡や天才ではない

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

10、試作の失敗を失敗と思わない

- ・エジソンの言葉
- ・私は失敗など一度もしていない。「この方法では電球は光らない」という発見を2万回もしてきたのだ。

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

11、人類に想像できることは……

- ・ジュールベルヌというフランスの作家はこう言いました。「人類に想像できることは、すべて、人類が実現できる。」
- ・なんという能動的な言葉でしょうか。私が尊敬する人で、大好きな言葉です。

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

12、人類はこれから

- ・人類は、自然の一部
- ・人類はまだ自然の1mmしか分かっていない
- ・だから伸びる
- ・でも何も発見しなかったら、伸びようがない
- ・「過去の常識は、未来のごみ箱である。」

by Gamy

Along the Providence of Nature  Kishigami Veterinary Hospital

第16回日本獣医内科学アカデミー学術大会で講演しました



第16回日本獣医内科学アカデミー学術大会が、2020年2月21日・22日・23日に横浜パシフィコで開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまなイベントが中止・延期されるなか、同学会では各会場のアルコール消毒薬の設置や、参加者のマスク装着や手洗いの徹底など予防に配慮され、無事開催することができました。

動物医療発明研究会では、最終日の23日日曜日、13時15分より山口潤先生（希望の丘どうぶつ病院院長）と岸上義弘先生（岸上獣医科病院院長）の発表がありました。実は今回、岸上先生は体調不良のため残念ながら欠席でしたが、みなさんにぜひお伝えしたいというご希望もあり、清水動物病院院長の清水邦一先生が代理で発表しました。

講演に先立ち、モデレーターを務める清水邦一先生、宏子先生よりごあいさつがありました。邦一先生は「今は新型コロナウイルスで大変な状況ですが、清水動物病院ではさまざまなアイデアを駆使している」「特にいま品不足のマスクにたいしては口元に清潔なペーパータオルやガーゼを当てるほか、畜産の伝染病予防に使われている『パコマL』は、安全性が高くエンベロップのないウイルス以外のウイルスに有効なため、マスクにスプレーして再利用している、しっとりフィットして苦しくない、電車に乗るときはこれで」と、さっそく実践中のアイデアを披露されました。

さらに宏子先生からは「アイデアを交換し合うのが動物医療発明研究会です」と同研究会を紹介し「今回は楽しい会にしたい」と笑顔で来場者に呼びかけました。また講演をする山口先生について「山口潤先生はゆたか先生、たくさん



の豊かなアイデアを披露してくれます」とユーモアあふれる人物紹介もあり、和やかな雰囲気の中で講演が始まりました。

石川県『希望の丘どうぶつ病院』院長山口潤先生 【実践編】アイデアでものづくり補助金+α

最初に今回の講演について山口先生より「発明というの特許・知的財産が絡むため『今回の演題発表に関連し開示すべきCOI関連にある企業などがいない』つまり『利益相反に関する情報を開示しない』」ことについて説明があり、今後は獣医療に関してもよりクリアな側面が求められると感じているとコメントしました。さらに知的財産検定を受けて資格を取得、補助金関連であることからファイナンスの勉強もしていること、地元では災害対策委員の副委員長をしているため、防災士と乙種6類消防設備士の資格を取得したという報告がありました。

ものづくり補助金について

「ものづくり」という名称から製造業対象に思われがちですが、医療系やサービス系も対象になります。またほとんどの場合1年に2回の公募がありますが、膨大な書類をかく必要があるため応募までいかないケースもあり、採択率が高くチャンスが多いという説明がありました。ただ「ものづくり補助金」は安倍政権になってから始まったものであり、今後もずっと続くかどうかかわからないため、もしかしたらそろそろ最後のチャンスなのではと山口先生は考えているそうです。

2015年1次公募では採択されなかったが

補助金は1千万円までと金額が大きいのに返還は不要であるものの申請書だけでも30枚から40枚が必要です。動物病院にとって1千万は現実的な金額であり、認定金融機関からの勧めもあり、山口先生は大量の申請書を作成して応募しました。しかし1次公募では残念ながら採択されず。採択された他の案件はタイトルからして、わかりやすいことに気づいたそうです。さらに獣医師の専門用語を入れてしまったことなどを反省、獣医師側の常識ではダメだということを確認しました。

2次公募でリベンジ

2次公募では反省点を生かして具体的な説明を心がけ、自身の病院の優位性、地域の特殊性を明示したそうです。また能登は和倉温泉という観光都市があり、ペット可の旅館に来るペットを診察することで、ペット歓迎に変えられないか、などを前面に打ち出しました。必要な機材もエコや心電計など、獣医療の知識のない人にも見てすぐわかるものにしたそうです。その結果山口先生が行う理由がよくわかるということで、無事採択されました。

2018年も挑戦し採択

山口先生は、2018年もものづくり補助金に応募します。応募の回数は関係なく、ひとつひとつの良し悪ししか見ないという説明がありました。

（注釈；今年度から変更があり過去に採択されている企業は採択されにくくなるようです）この年は「地方創生」を強調し「高齢化に進む能登地域を支える、犬以外の小型動物を中心とした獣医療の提供」というタイトルで応募しました。このときはエビデンスの裏付けも行いました。データを探してグラフを作成するなど論文の執筆とも作業ががぶり、やりやすかったそうです。



山口先生のアイデア

山口先生の動物病院でのアイデアのトピックについて、「人事・ヒヤリハットノートの作成」でスタッフの空気が良くなったことや、「マルコポーロプロジェクト」としてさまざまな場所にスタッフに行ってもらっているという話がありました。

また昨年大雨で電圧が落ちて損害が出たことから、予備電源を確保しているという報告もありました。Facebookでもアイデアを発信しているので、質問があれば受け付けますということです。最後に来場者からは「興味深く聞いた」という感想があり、「見積もりはどうすればよいか」「コンサルタントに頼むべきか」「募集はいつなのか」などの質問がありました。

大阪府『岸上獣医科病院』岸上義弘先生 「ワクワクする、発明するための「ツボとコツ」

今回の講演は、「一般的な発明の心構えや考え方」についてです。今回は岸上先生があたためてきた「ひらめきが生まれる脳の話」です。今回は邦一先生（講演写真右）が代理で発表しました。次回、チャンスがあれば岸上先生本人が「ひらめきを産む脳の話」を講演します。

発明とは？

岸上先生によると、発明というのは「あなたが地球上の人類初のアイデアを考え付いた」ということ。アイデアを思いつくときの例として「新潟に豪雪」というニュースを見たときに考えたことを例に挙げました。

「だれかなんとかしろよ」ではなく「私が何とかしたい」と思うことで、「ボランティアを呼べばいいのでは?」「雪が屋根に付かないようにするのは?」「雪をそもそも降らないようにできないか」などいろいろなアイデアが浮かんだと言います。そのなかでキャタピラ付きの屋根にして、雪が積もったらキャタピラを回転させて、雪をどんどんおろせばいいのでは?というところも考えました。しかし「キャタピラは特許の資格はない、しかも雪はおろせるが、大量の雪が家の周りに事故や被害が増える」ことに気づいたそうです。キャタピラは安易な妥協と考え、「一瞬にして雪を溶かす、無害な化学物質を発見したいと考えました。または雪の分子構造を一瞬で破壊するレーザー光線を発見したい」と考えました。

10年前になかった技術が今は普通にあってあります。それなら、今にはない10年後の発明を見つけるのも可能だと思ふとのこと。それが20年後30年後の世界の普通の技術であれば、今にそれを見つけることが大きな発明になります。

「発明を生み出すための私なりの考え方」

不便を不便と感じることで、「なんとかならないか」と考えることや、「本当にこれでいいのか」と違和感に立ち止まって考えます。これが発明の始まりであり、思い込みや偏見、決めつけを排除するというのが岸上先生の提案です。

新しく買ったホワイトボードが、大変文字が書きにくかったそうです。よく見ると実はビニールできれいにコーティングがしてありました。それに気づかず3ヶ月も「消しにくい」と思っていたとのことで、先入観や思い込みはダメという例として紹介されました。

ほかにも思い込みや決めつけとして「教科書だから間違いない」「大学の先生だから間違いない」「専門医だから間違いない」などがあり、丸投げせず、自分でかみしめて考える必要があると言います。

なんとしてもしたいという願望や熱意

また発明には「なんとしてもしたい」という願望と熱意が大切であるということです。「どうしても2階に上がりたい」という強い願望が「はしごや階段を発明した」という松下幸之助の言葉が岸上先生は好きだそうです。

また狭い視野で物事を見ないでアンテナを張ることが大事であり、例としてMuse細胞の発見エピソードを紹介しました。発見者である東北大の出澤先生は、培養していた細胞をミスによって全滅させましたが、あきらめきれずにもう一度顕微鏡を見てみたら、たまたま生きていた細胞がいました。それがiPS細胞に変化できるMuse細胞だったそうです。Muse細胞については、一度ゆっくり調べてみては?と、邦一先生からコメントがありました。

また昨日必死で考えていたことがばかばかしくなるほど、今日のアイデアが発展していることもあるそうです。明日考えることは、今日のアイデアを凌駕しています。発明したことで満足せず、日を改めて飛躍的にアイデアを発展させることも必要だというのが岸上先生の考えです。

発明を招く失敗は、失敗ではない

発明の試みで失敗をしても、それは成功を近づけることになる。エジソンは「私は一度も失敗していない。なぜなら、この方法では電球が光らないという発見を2万回もしてきたのだ。」と述べています。

ここで宏子先生から「病院で保定が上手ではない子がいても、どんどん挑戦していくことで成功するようになる、挑戦することが大事です」というお話がありました。

アイデアには抵抗勢力?

アイデアや発明には抵抗勢力が出ることもあり、その場合は抵抗勢力から

離れること、そして勇気をもってあきらめずに進めること、というお話もありました。ここでは宏子先生からは、動物医療発明研究会の会員である山形のIMI研究所所長板垣先生が、定説を覆す報告をしたときに反論があったが、農家の人の協力で実績が増えていったというエピソードが紹介されました。



メモの大切さ

思いついたこと、気になることはメモをしていくことが大切です。岸上先生はZファイルという100円均一のファイルを使用していますが、邦一先生は「アイデアの泉」という袋にどんどん入れていくそうです。人間の脳は忘れる仕組みになっているので、メモは大切であり、過去のメモをときどき眺めると思い付きがひらめくというお話がありました。

発明したらどうするか?

本当にいい発明をしたら特許をとったり商品化したりすることが必要であり、ニーズがない発明は無意味となります。アイデアが浮かんで洗練されたら、特許事務所に先願調査を依頼するのがおすすだめだそうです。先願というのは、すでに他人が発明済みということ。

先願が見つかってガッカリすることもあります。そのときは先願を参考にすることができ、さらに自分のアイデアを改良して先願を上回ることも可能になります。アイデアの発明は、特許申請よりも先に企業に持ち込むのはお勧めしない。特許書類は特許事務所に書いてもらう方がよいというアドバイスもありました。出願後、特許庁からの拒絶は、お決まりとして、おおむね必ず来るものととらえ、くじけないで反論、主張することも大切とのこと。また審査請求料や特許の登録料など印紙代は結構かかるため、あまり商品化しても市場が小さいという場合には、損をすることもあるそうです。さらに30年後の視点を持つように努めること、そしてアイデアを洗練するために知識と情報を集め、工夫することで発明が生まれるという解説がありました。ただしコンピューターに発明ができないように、情報をたくさん持っているから発明ができるわけではないということです。

岸上先生の考えるひらめきとは?

単なる思い付きから、情報や知識を集めて積み上げて自分のアイデアを洗練していくことで高い山を作ります。しかし「山ができた!」と思ったら実はもっと高い山があります。そっちに行きたい!と思ったら…先生がひらめいたのはドローンを使ってその高い山に行くこと。

「情報を集めて洗練された山を作ったとしても、それが最高のアイデアとは限りません。発明は、また別の次元にあります。いかにしてドローンで本当の高い山に登れるか、ひと皮剥くための脳のスイッチの入れ替え。これを次回、岸上がお話します」という岸上先生の言葉を紹介して講演は終了しました。

最後に邦一先生の発明、や動物医療発明研究会会員「ウイング」の聴診器の紹介がありました。

- ・エコーのフットスイッチを踏みやすいようにポッチを付けている。
- ・超音波のボタンを押すのが大変だったが、クッションゴムを付けることで肘でも簡単に押せる。
- ・スイッチの色を変えておくと、指示がしやすい。「青を押して!」などと伝えれば誰でもわかる
- ・片手で開く聴診器。人間の救急医療で役に立つものだが、獣医療でも便利。特にエキゾチックの診療では片手でできるのがよい。開きすぎて壊してしまう危険も減る。

「一見誰にでもできる小さいアイデアだが、いつも考えることで何歳になっても若々しく仕事ができます」という邦一先生と宏子先生の言葉で、動物医療発明研究会のプログラムは盛況のうちに終了しました。

総会&無料セミナーについて

いつも皆様が楽しみにして全国各地から
25~30名集まって下さる
年1回の総会&セミナー...



毎年6月頃、出版社インターズーさんで開催して
おりますが、コロナが落ち着くまで様子
をみたいと思っていきたいと思います。(秋~冬?)

『こんな話しが聞きたいな』とか
『この人のセミナー希望』などリクエストが
ございましたら下記までどうぞ!

F A X : 045-583-3594 メール: sah@vet.ne.jp

(何時でもご遠慮なく)

もちろん『私がこの話しが出来ます』というのも
大歓迎です。

動物医療発明研究会『年会費』お知らせ

お世話になります。おかげさまで会員数も増え、さらに活気ある会になっています。今年度も会費納入の時期になりました。お手数ですが更新の手続きをお願いいたします。



年会費: ¥4,000
(2020年4月~2021年3月分)
同封の振込用紙にて
5月15日(金)までに
お振込ください。

★只今 原稿大募集中～

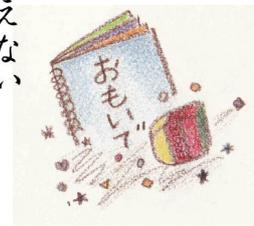
- ◎ オススメの本 (ジャンルは問わず)
- ◎ ゆずりたい品 (本・機械・器具など)
- ◎ お役立ち情報・面白ネタ
- ◎ 他の学会報告 (海外・日本・医学などジャンル不問)
- ◎ プチ自慢 (こんな資格をとりましたなど)

*SAMI 編集室 noma@dream.jp へ送ってくださ～い

どんどん
いつでも
迷ってね～

消えない
ケシゴムで
忘れたいこと
こするから
広がっている

壺弥生



清水宏子の五行歌

新入会員

古関 一成さま/本郷いわしや(東京) 私たちの喜びを表現することで、お客様の喜びに変える

動物医療発明研究会のホームページ

会員病院の登録も
できます



<http://sami-hp.net>

会員の病院・施設名、郵便番号住所、TEL&FAXとホームページアドレスを掲載します。ご希望の場合は、「SAMI-HP掲載希望」と明記して、データをメールにて、下記アドレスまでお送りください。

hp@ispecial.co.jp
(運営受託:株式会社アイ・スペシャル)



動物医療発明研究会・事務局では、お役立ちのアイデアやエピソードを随時募集しています。お気軽にメール、FAX、郵便でどうぞ。
☆なお掲載されるデータは、編集担当「ノーマデザイン」野間へ(下記)直接お送りください。
noma@dream.jp

SAMI NEWS 55号 発行日: 2020年4月吉日

発行所: 動物医療発明研究会事務局

発行人: 会長 清水 邦一 / 編集人 ノーマデザイン 野間 忠博

事務局: 〒230-0061 横浜市鶴見区佃野町3-3 清水動物病院内

メール: sah@vet.ne.jp

FAX: 045-583-3594 (電話: 045-583-3738)